

演習課題

ケース	氏名ゆりさん (仮名)	性別：女性	年齢 1歳 H30年2月生
障がい名：ダウン症 完全型房室中隔欠損症 (姑息術のみ実施) 難治性乳び胸水 (既往)			
<p>(事例の概要)</p> <p>妊娠中は近医の産婦人科で妊娠経過をみてもらっていたが、エコーで心臓に疾患があると指摘を受け大学病院を紹介された。妊娠経過中に胎児の肺に水が溜まり、量も増えつつあることから帝王切開で出産することが決まった。</p> <p>32週3日 1758g 低出生体重児で出生。完全型房室中隔欠損症に対し、姑息術のみ実施。(肺機能低下のため絞扼術が十分にできなかった) 肺高血圧のため、H30年9月に気管切開術を施行。以後24時間人工呼吸器、酸素吸入、経鼻経管栄養を実施。体調の急変もなく経過しているが、細やかな配慮と観察は必要。長期の呼吸器使用、胎児難治性乳び胸水により肺野の発育、右肺野の過膨張と慢性呼吸不全のため、呼吸器を外してTピースで過ごすことができるのは1~2時間程度。</p> <p>心疾患の治療に関しては、福岡子ども病院を受診しているが、今後の心疾患に関する治療予定については未定。体調安定し、家族も医療的ケアの手技獲得もできたため、H31年2月に退院し、在宅生活を開始予定。在宅に戻るにあたり、大学病院から退院前カンファへの出席依頼があり、参加した。</p>			
<p>(医療の状況・心身の状況)</p> <p>気管切開・24時間人工呼吸器装着・24時間酸素吸入・経鼻経管栄養 (注入回数 1日 5回) 鼻腔口腔からの吸引と気管からの吸引 回数は日によって違うが、頻回に吸引することもある。 姿勢は寝たきり。寝がえり未。 日常生活は全介助。体重6kgくらい 訪問看護が週に4日介入。入浴支援や体調管理などを実施予定。 退院後は、2週間に1回大学病院受診。病院までは車で40分ほどかかる。</p>			
<p>(家族背景)</p> <p>父 (三平さん) : 29歳。警備会社勤務。夜勤もあり不規則勤務。平日に休みの時もあるが、土日に仕事のときもある。趣味は釣り。 母 (愛子さん) : 30歳。保育士。ゆりさんを妊娠した時に退職。現在は専業主婦。身長が140cmくらいで小柄。明るくにこにこされているが、これからの在宅生活に不安はある様子。</p> <p>母方祖父母 : 吸引などの医療行為の手技は獲得。ゆりさん家族が住んでいるアパートから車で10分程度のところに住んでいる。祖父母も仕事をしているため、ゆりさんのことを一緒にみることは難しい。</p>			
<p>(住環境)</p> <p>エレベーターのない3階建てのアパートの3階に居住。</p>			
<p>(家族の主訴)</p> <p>退院後の在宅生活への支援。(どんな生活になるかイメージがつかない。) 医療的ケアが母一人で実施できるか不安。</p>			
<p>(家族構成など)</p> <p>The diagram shows a family structure. At the top, there are two separate family units, each consisting of a square (male) and a circle (female) connected by a horizontal line. The left unit is labeled '大分在住' (Oita Prefecture) and the right unit is labeled '宮崎市内' (Miyazaki City). Below these, a larger oval contains a central family unit consisting of a square, a circle, and a double-circle (representing a child) connected by lines. This central unit is connected to the two units above it by vertical lines, indicating a relationship between the families.</p>			